

平成30年度 学校評価書

学校教育目標：「すすんで学び、よりよく生きる人を育てる」

【評価】

保護者による評価

A：3点

B：2点

C：1点

D：0点として点数の合計による評価（質問項目ごと保護者最大42点）※保護者14名

教員による評価

A：3点

B：2点

C：1点

D：0点とする（(1)(2)それぞれ教員最大24点）※教員8名

達成度：A 達成できた（8割以上）

B ほぼ達成できた（6～7割）

C あまり達成できなかった（4～5割）

D 達成できなかった（3割以下）

めざす子ども像

○心も体も元気な子ども ○生活する力のある子ども ○自分の思いや気持ちを伝える子ども

No	めざす学校	重点	評価項目	具体的方策・評価指標等	達 成 状 況	達成度	課題（○）及び改善策（→）
1	早く登校したくなる 楽しい学校	授業の力量と専門性の向上	(1) 児童の実態把握と課題設定をていねいに行い、日々の授業に生かしていくと共に研修会に参加して専門性の向上を図る。	・「子どもが主体的に取り組む授業づくり」の研究テーマを継続し、児童の活動を見取る目を高めて行く。 ・研究協力者や他校からの参会者の指導・意見を参考にして授業づくりに活かしていく	・日常生活の指導を中心に、学校生活の流れを一定にして、見通しを持たせる工夫をした。一年生は、入学当初と比べ大変落ち着いて学習に取り組んでいる。 ・上学年児童は、文字を読んだり書いたりする力がついてきたことで、言葉で伝える・意思を表す場面が増えてきている。	A	【授業の力量と専門性の向上】＜研修担当＞ ○新学習指導要領に即した指導の推進。 →職員の研修機会を計画的に確保していくことで、これまでの山形校の実績を踏まえた指導内容、方法等について検討を加えていく。
			(2) 自分の思いや気持ちを伝える力、関心をもって人とのかかわる力を育んでいく。	・多様な学習形態（学級、上学年、下学年グループ、合同）による活動。 ・児童の思いを受け止め、共感したことばかけをしていく。身振りや発声などを含めた要求を引き出していく。	・上学年、下学年のグループ学習を導入することで、生活経験や実態にあった様々な学習活動を仕組むことができた。 ・合同学習に参加することで、集団での学習経験を積むことができた。また、担任以外の教師とかかわる機会が増えている。 ・集団で学習する機会が多いため、周りの人との適切なかわり方や仲間意識などを学ぶことができた。 ・朝の挨拶運動、健康観察簿当番など、職員室で仕事をしている職員との連携により、出入りの際のマナーやあいさつが上手になっている。		○児童の実態を考慮した様々な学習形態を取り入れていく。 →効果的な学習形態や方法を探り、意図的に他学年とかかわる機会も作りながら学びの場を広げていく。
			評価点集計 教員（1）15点（2）16点	保護者 1（子供の成長：38点）	保護者 2（子どもに合った指導：38点）	107/満点132点 81%	
2	安心してまかせられる 安全な学校	教育環境の有効な活用による指導の充実	(1) 山形市立第五小学校と連携し、本校、天童校と連絡・調整を図りながら共有施設等を有効活用し、交流及び共同学習を計画的に進める。	・学校行事については、事前打ち合わせを密にして意義のある交流学习にしていくな。 ・授業レベルでは「招く」「出向く」活動を仕組み双方向の活動を推進していく。	・山形五小から、施設（体育館・視聴覚室・プール）や備品（跳び箱、綱引き用綱、ミニハードル、セーフティーマット等）を借用し、いろいろな場の設定ができた。 ・村特本校、天童校と双方向による計画的な交流学习を組むことができた。児童は相手意識をもって取り組む様子が見られた。 ・山五小体育館を会場として、山形校主催のスクールコンサートを実施した。山五小低学年との場面を共有した音楽鑑賞ができた。	A	【教育環境の有効な活用による指導の充実】 ＜保健体育部＞ ○共用施設の活用は進んでいるが、体育館の利用などすり合わせが必要。 →日常的な連携を密にして、山五小が使用していない時間帯などに使えるよう事前の連絡を密にする。
			(2) 全教職員でヒヤリハットを共有し事例の蓄積と迅速な対応を継続していくことで、日常的な事故防止と安全に学校生活が送れるように努める	・事例に気づいたときには、終礼等で速やかに周知、即時の改善につなげていく。 ・山形校の反省や児童の実態・目標等を踏まえた計画を提案し、山五小の計画と摺り合わせながら、より充実した避難訓練につなげる。	・大きな事故や怪我等なく過ごすことができた。日頃の安全対策の成果と捉えられる。 ・非常持ち出し袋の設置、第2次避難先への山五小と確認、備蓄食糧の見直しなど新たな安全対策が整った。また、事務部からの協力も得て、昇降口のナンバー錠、教室のつかえ棒の設置により外部からの侵入対策が整ってきた。		【安全・安心な学校の実現】＜保健体育部＞ ○ヒヤリハット発生時の報告・連絡・相談はなされていたが、記入が周知されていない点が見られた。 →所定の様式に沿って記録に残し、全体で共有。 →安全管理の徹底はもとより、健康観察の徹底、気がかりなことは職員間で相談し、なおかつ保護者との連絡も密にして安全な学校生活に努める。
			評価点集計 教員（3）16点（4）16点	保護者 3（山五小・本校との交流：37点）	保護者 4（安全・安心：37点）	106/満点132点 80%	
3	相談や支援を受けられる 頼りになる学校	危機管理意識を持続し、安全安心な学校の実現	(1) 地域回覧の学校だよりを毎月発行し、山形校の生活や特別支援教育に関する情報を発信していく。	・日常的なやりとりを中心にしながら、学級・学校だよりを活用する。 ・児童作品の展示や写真等の掲示物で学習の様子を知らせ、保護者と十分に共通理解できるようにする。	・登下校時の日常的なやりとりを通して、学習面・生活面において学校と家庭が連携して支援にあたることができた。 ・随時、学習の足跡を昇降口に展示、掲示してお知らせした。保護者、放課後デイサービスの方とも学校生活の出来事を話題にして情報交換することができた。 ・毎月発行する学校だよりでは、「つくる」を連載シリーズとして取り上げた。本校、天童校のたよりもあわせて掲示できた。	A	【情報発信・保護者との連携】＜教務部・小主任＞ →本校進路部と連携を取りながら、適宜進路だより等を配付し、将来の進路を考えるきっかけづくりとしていく。 →児童作品の展示や写真等の掲示物で学習の様子を知らせることに努め、保護者と十分に共通理解できるようにする。
			(2) 関係機関と連携をとり、適切な支援につなげていくと共に、各種相談への対応を積極的に行い、地域の特別支援学校としてセンター的機能の発揮に努める。	・近隣の小中学校の依頼に応じて、適切な相談業務にあたる。 ・	・前籍校園と適切な連携を取りながら、学びの連続性、切れ目のない支援を意識して、日々の指導支援にあたることができた。 ・近隣の小学校の要請を受けて、随時相談に応じ、センター的機能の役割を果たすことができた。		【教育相談・センター的機能】＜教務部・小主任＞ ○教育相談の業務分担の推進と簡潔な報告書の作成。 →教育相談業務の平準化を図るために、複数による対応を進める。 記録の取り方や相談業務の進め方をOJTにより伝えていく。
			評価点集計 教員（5）22点（6）19点	保護者 5（担任との連絡：39点）	保護者 6（地域への発信：37点）	保護者 7（学校からの情報：35点）152/満点174 87%	
4	働きやすい やりがいのある学校		(1) 学部会を核として日々の授業や分掌部の取り組み等を検討・確認し全教員で児童を支援する姿勢のもと、円滑かつ効果的に教育活動を行う。	・職員室での情報交換（児童・授業）を大切にし共有化していく。メモや記録に書き留め、授業や指導・支援の改善に活かしていく。	・児童の様子や課題、目標について短い時間でも教師同士で共有して共通理解して支援にあたることができた。 ・教務主任・学部主任が上学年担任に入っているため、低学年と上学年の日程等の把握が不十分になり、調整不足がみられた。	B	【学部運営のさらなる効率化】＜教務部・小主任＞ ○打合せや予定表の削減を受けた情報共有の工夫。 →その都度の声掛けや職員室での情報交換など小規模学校の利点を生かした連携に心掛けていく。特別教室や2台あるテレビの使用等、細かい点までお互いに声掛けをして調整を図る。
			(2) 授業づくりに協働して取り組んだり、会議運営を工夫したりすることで子どもと向き合うゆとり創出に努める。	・担任会や分掌部会を受けて、学部会で共通理解する運営サイクルを進めていく。 ・分掌部の業務内容についてお互いに相談・協働で仕事を進めていくようにする。	・毎日行っていた終礼を週末のみにしたり、週予定や月歴をを整理統合したりすることで、教材作りなど授業の準備や学級事務の時間を確保することができた。 ・網戸の設置など施設整備面での迅速な対応、清掃や修繕、教材づくりへの支援、食育における工夫した指導など事務部からの協力は山形校の特色。		○これまで同様、事務部との連携を積極的に図っていく。 →週はじめの事務部会により教育活動の見える化と情報共有。事前依頼による見通しを持った準備、作業をお願いしていく。
			評価点集計 教員（7）19点（8）18点	37/満点48点 77%			